

第5章

計画の推進

第5章 計画の推進

第1節 健康を支える環境整備（各主体の役割）

計画の推進に向けては、家庭や地域の中での一人ひとりの取組も重要ですが、個人の健康づくりを支える関係機関や団体、行政などの多様な実践主体がそれぞれの役割を担い、お互いの立場を尊重しながら、本計画がめざす基本理念や基本目標を理解し、取組の効果を相乗的に高めていくことが重要です。

〈市民・地域の役割〉

- ・市民一人ひとりが健康づくりの主体としての認識を持ち、自らの健康の把握・管理、生活習慣の改善、体力づくり等に取り組みます。また、積極的に自主グループ活動、ボランティアや地域活動等に参加するなどして、継続的に健康づくりに取り組みます。
- ・家庭は、生涯にわたる健康習慣の形成と、子どもの心と身体の成長を支えます。
- ・地域は、町会や老人クラブ、各種団体などを通じて、市や関係機関などと連携し、地域の実情に応じた自主的な健康づくり活動に取り組みます。

〈行政の役割〉

- ・健康に関する正しい知識・情報の提供、健康づくりを実践する機会の提供、健康的な環境づくり等を通じて、市民及び地域の取組を支援します。
- ・本計画に定める施策の数値目標の達成をめざし、庁内関連部門間の連携のもと、健康づくりに関わる具体的な事業を推進します。
- ・食育の推進にあたっては、市民、教育関係者、子育て関連施設関係者、保健医療関係者、農業者、食品関連事業者及び食生活改善推進員との連携及び協力を努めます。

〈学校（学校保健）の役割〉

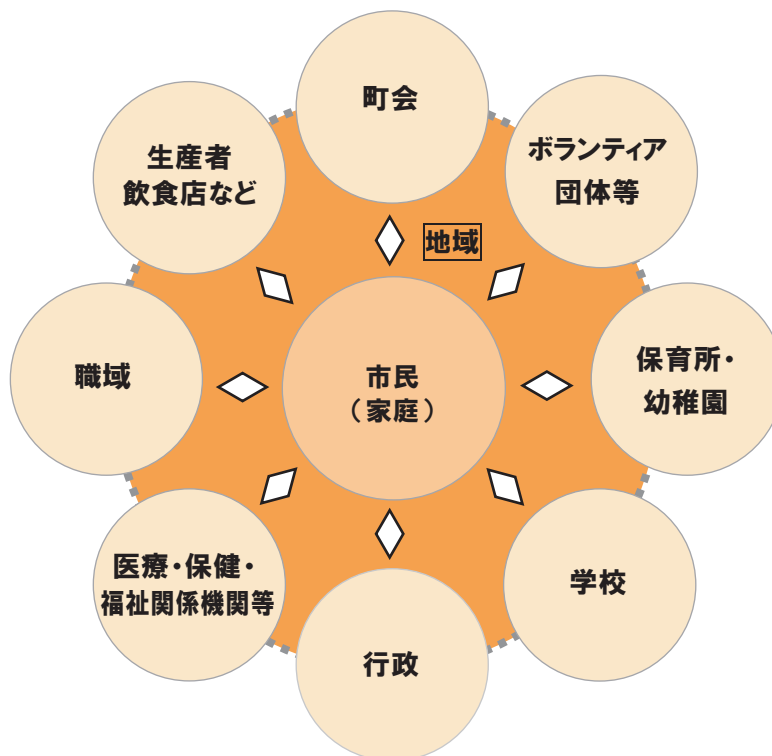
- ・健康の大切さを認識し、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく知識や能力を育てます。
- ・食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけ、給食の時間を通して自らの健康管理ができる知識や能力と、豊かな人間性を育む基礎を培います。

〈職場（職域保健）の役割〉

- ・ 職場（職域保健）は、就業している市民が生活の多くの時間を過ごす場として、従業員が健康を維持できるような職場環境づくりに取り組みます。また、従業員とその家族が、自らの健康状態の把握・管理ができるよう健診等の機会を確保します。

〈医療・保健・福祉関係機関等の役割〉

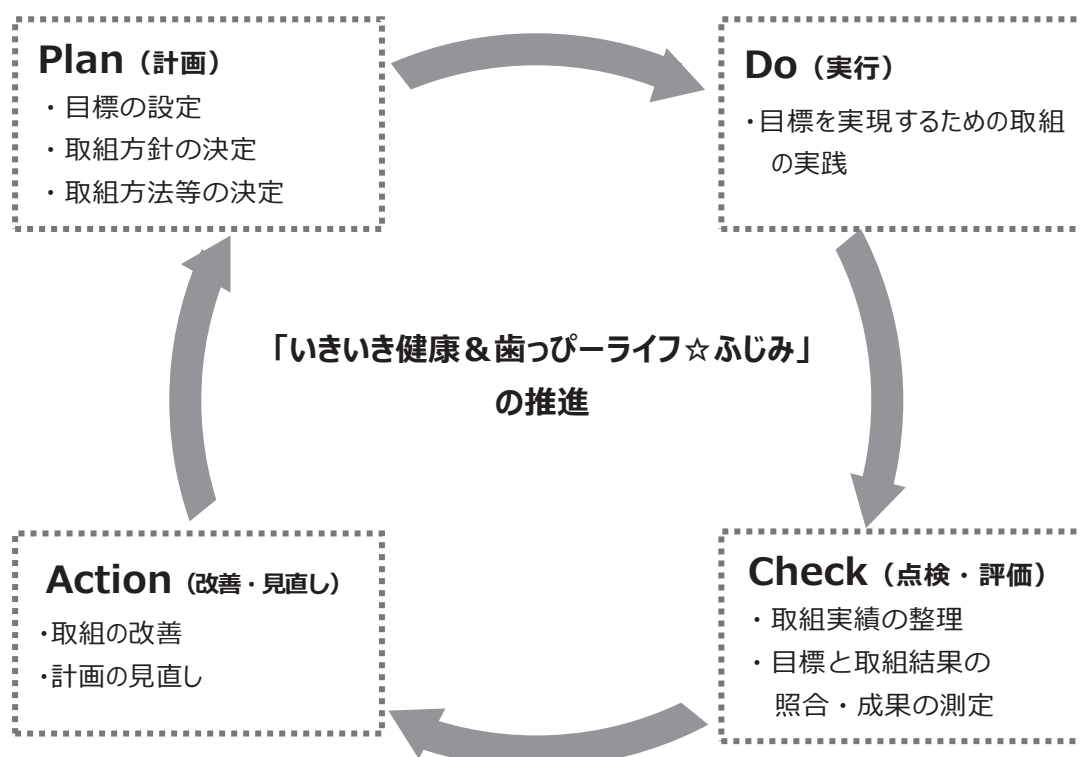
- ・ 医療機関及び医療従事者（医師・歯科医師・薬剤師等）は、市民に身近な健康の専門家として、疾病の治療だけではなく、疾病の予防や健康づくりに関する情報等を提供します。また、かかりつけ医・歯科医・薬局が中心となって、他の専門家との連携を図りながら、市民の日常生活における健康づくりを総合的に支援します。
- ・ 保健・福祉関係機関とこれらの機関に従事する者（ケアマネジャー・社会福祉士・精神保健福祉士・保健師・栄養士等）は、市民が健康づくりに取り組めるよう、医療機関等と連携を図りながら支援します。



第2節 計画の進行管理

計画の進行管理にあたっては、「富士見市健康づくり審議会」及び「富士見市健康づくり市内検討委員会」等において事業の進行管理を行っていきます。

進行管理は、P D C Aサイクルにより、計画（Plan）を立て、それを実施（Do）し、その結果を評価（Check）して、さらに計画の見直し（Action）を行うという一連の流れを活用し、事業や取組の改善点を明らかにし、今後の施策の充実に生かします。



第3節 計画の評価

1. 市の事業の進捗評価

本計画では、各施策について、市の主な取組を掲載しています。本計画に関連する事業は多種多様です。（「資料編 第3節 関連事業一覧」139から161ページ参照）

（1）進捗状況の確認

本計画では、すべての事業について、年度ごとの進捗状況や取組時における課題を把握し、「富士見市健康づくり庁内検討委員会」での検証のもと、「富士見市健康づくり審議会」へ報告し、その協議に基づき必要に応じ改善や見直しなどの措置を講じていきます。

（2）評価判定の方法

評価に当たっては、各種計画における事業の評価基準を参考に行うとともに、次年度以降の方向性も把握します。

<進捗状況>

判定	内容
拡大	内容（規模）を拡大して継続
継続	これまで通りに継続
改善	内容を改善して継続
縮小	縮小
廃止	廃止(完了を含む)

2. 数値目標の評価

本計画では、各施策についての成果指標として数値目標を設定しています。

設定に当たっては、調査結果、統計データ及び事業状況等により、現状値及び目標値として数値が設定できるものを用い、国及び県の目標値なども参考にしています。

(1) 進捗状況の確認

計画を推進する中で、毎年度、数値を把握できるものについては、その進捗状況を把握し、「富士見市健康づくり審議会」及び「富士見市健康づくり庁内検討委員会」へ報告します。

計画の終了年度には、本計画で設定した目標値と策定時の現状値に対する、最終的な達成状況の評価するとともに、前期計画を含めた全計画期間の総括を行い、その結果を次期計画に活かすものとします。

(2) 評価判定の方法

本計画で設定した現状値及び目標値には、主に把握方法や算出方法等の違いにより、性質の異なる3種類のデータがあります。

(ア)	「人」、「件」で表されるような実数 (例 参加人数、受診者数など)
(イ)	「%」で表される、ある特定の場や集団の全数で導かれた値 (例 特定健康診査結果、がん検診受診率など)
(ウ)	「%」で表される、抽出調査で導かれた値 (例 健康に関するアンケート調査など)

値の厳密な比較を行う場合には、本来はデータの種類に応じた手法が必要です。しかし、各施策のおおよその状況を把握しようとする場合、異なった手法による判定を並べるとは、正確さを増す反面、わかりやすさを損なう場合があります。

そのため、評価に当たっては、中間評価と同様に、策定時の値及び策定時に定めた目標値の関係性により、4段階で判定し、一元的に評価することとします。

判定	内容
A	策定時に設定した令和7年度の目標値に達した
B	策定時に設定した令和7年度の目標値に達していないが改善傾向にある (策定時実績値+3ポイント以上)
C	変わらない(策定時実績値±3ポイント未満)
D	悪化している(策定時実績値-3ポイント以上)

※最終評価時の値の増減が、中間評価時の値に対して±0.95以内であれば、「C」とします。

※目標値が0%の場合、策定時よりも減少していれば「B」と判定します。

※目標値が実数の場合、策定時の値に対して評価時の値が97%~103%の間であれば「C」とし、それ以外を「B」か「D」と判定します。

3. 数値目標一覧

1. 栄養・食生活（◎：新たに取り組む指標）

指標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	出典
朝食の摂取状況 (「朝食を毎日食べる」と答えた割合)	小学生(5年生)	91.5%	98.0%	健康に関するアンケート調査 (令和2年度)
	中学生(2年生)	78.9%	92.0%	
	18~39歳	61.5%	76.0%	
夕食を一人で食べることが週3回以上の子どもの割合	小学生(5年生)	14.4%	減少傾向へ	
	中学生(2年生)	22.2%	減少傾向へ	
バランスのよい食事の頻度 (「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べる日」が「ほぼ毎日」と答えた割合)	成人	56.7%	70.0%	
◎ 適正体重を維持している者の増加	20~60歳代男性の肥満者	31.9%	25.0%	
	20歳代女性のやせの者	22.0%	20.0%	
◎ 低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者の割合の増加の抑制	65歳以上の低栄養の者	16.1%	17.0%	
◎ 野菜摂取量の平均値の増加 ※1皿は70g	5歳児	1皿	2皿	
	成人	2.5皿	4皿	
食生活改善推進員数	食生活改善推進員数	66人	73人	令和2年度食生活改善推進員協議会総会資料
地場産食材の利用状況 (地元産食材の利用を「心がけている」「どちらかといえば心がけている」と答えた割合)	成人	49.2%	62.0%	健康に関するアンケート調査 (令和2年度)
学校給食センターにおける地場産食材利用状況 ※「地場産食材使用率(重量割合)」(第6次基本構想第1期基本計画の指標名)	重量ベース	33.8% (令和元年度)	42.0%	学校給食センター資料
食育への関心 (食育に「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた割合)	成人	65.8%	75.0%	健康に関するアンケート調査 (令和2年度)

第5章 計画の推進

2. 身体活動・運動

指標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	出典
1週間の総運動時間が、 60分未満の子どもの割合	小学生 (5年生)	男子	27.5%	減少傾向へ
		女子	39.1%	減少傾向へ
運動習慣者(1回30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している者)の割合	20~64歳	男性	20.8%	32.0%
		女性	17.4%	35.0%
	65歳以上	男性	32.4%	60.0%
		女性	26.6%	50.0%
市民健康増進スポーツ大会の参加者数	参加者数	5,771人 (令和元年度)	6,000人	文化・スポーツ振興課資料
◎健康マイレージの参加者数	参加者数	1,663人 (令和元年度)	3,700人	健康増進センター資料
◎パワーアップ体操クラブ数	クラブ数	56クラブ (令和元年度)	70クラブ	
◎フレイルチェック事業参加者数の増加	高齢者	0人 (令和元年度)	460人	健康増進センター資料
◎フレイルを知っている割合	成人	13.2%	40.0%	健康に関するアンケート調査 (令和2年度)

3. 健康管理

指標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	出典
妊婦健康診査助成券利用者数	のべ受診者数	19,095人 (令和元年度)	継続	母子保健医療推進事業報告 (令和元年度)
4か月児健康診査	受診率	95.1% (令和元年度)	99.0%	
肺がん検診	受診率	32.4% (平成30年度)	50.0%	がん検診結果統一集計結果報告書 (令和元年度)
大腸がん検診	受診率	28.0% (平成30年度)	50.0%	
胃がん検診	受診率	2.7% (平成30年度)	13.3%	
乳がん検診*	受診率	11.2% (平成30年度)	20.0%	
子宮頸がん検診*	受診率	16.3% (平成30年度)	17.7%	

指標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	出典
特定健康診査	受診率	43.5% (令和元年度)	60.0%	特定健康診査等の実施状況に関する結果報告(法定報告)
妊娠中の喫煙の割合	妊娠中の喫煙者の割合	3.1%	0%	健康に関するアンケート調査 (令和2年度)
妊娠中の飲酒の割合	妊娠中の飲酒者の割合	1.4%	0%	
◎かかりつけ医を持つ者の割合	成人	59.6%	69.7%	
◎成人の喫煙率の減少	成人	15.8%	12.0%	

*乳がん検診・子宮頸がん検診受診率算出方法

受診率 = (「前年度の受診者数」+「当該年度の受診者数」-「前年度及び当該年度における2年連続受診者数」) / 「当該年度の対象者数」×100

4. こころの健康

指標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	出典
ストレス等の相談先の状況 (相談できる人や場所がないと答えた割合)	小学生(5年生)	15.0%	12.0%	健康に関するアンケート調査 (令和2年度)
	中学生(2年生)	29.4%	20.0%	
	成人	29.5%	21.0%	
睡眠と休養の状況 (睡眠による休養を「あまりとれていない」、「とれていない」と答えた割合)	成人	27.3%	22.0%	

第5章 計画の推進

5. 歯と口腔の健康

1. 妊婦・胎児

指標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	出典
妊娠中に歯科健診を受診する妊婦の割合	妊婦の受診率	39.2% (令和元年度)	50.0%	4か月健康診査時における、保健師による聞き取り調査

2. 乳幼児

指標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	出典
むし歯のない幼児の割合	1歳6か月児	99.0% (令和元年度)	99.5%	母子保健医療推進事業報告書 (令和元年度)
	3歳児	91.1% (令和元年度)	92.0%	
	5歳児	71.2% (令和元年度)	75.0%	就学時健康診断におけるむし歯のある児状況調査
仕上げみがきをしている保護者の割合	1歳6か月児	95.4% (令和元年度)	100%	1歳6か月児健診問診項目集計
	3歳児	98.0% (令和元年度)	100%	3歳児健康診査歯科保健追加問診票
	5歳児	82.0%	100%	健康に関するアンケート調査 (令和2年度)
適切な間食回数を超えて甘いお菓子を食べている幼児の減少	1歳6か月児	2.3% (令和元年度)	1.0%	1歳6か月児健診問診項目集計
	3歳児	41.4% (令和元年度)	17.1%	3歳児健康診査歯科保健追加問診票
	5歳児	20.0%	12.6%	健康に関するアンケート調査 (令和2年度)
甘い飲み物をほぼ毎日飲んでいる幼児の減少	1歳6か月児	34.1% (令和元年度)	30.0%	1歳6か月児健診問診項目集計
	3歳児	52.2% (令和元年度)	40.0%	3歳児健康診査歯科保健追加問診票
	5歳児	41.4%	40.0%	健康に関するアンケート調査 (令和2年度)

指標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	出典
定期的にフッ化物を塗布している幼児の増加	3歳児	54.5% (令和元年度)	60.0%	3歳児健康診査 歯科保健追加問 診票
	5歳児	77.6%	80.0%	健康に関する アンケート調査 (令和2年度)

3. 児童生徒

指標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	出典
むし歯のない児童生徒の割合	小学生(4年生)	54.1% (令和元年度)	60.0%	富士見市学校保 健統計報告書
	中学生(1年生)	70.7% (令和元年度)	74.5%	
むし歯を治療していない児童生徒の減少	小学生(4年生)	15.9% (令和元年度)	0%	
	中学生(2年生)	16.8% (令和元年度)	0%	
歯肉に炎症をもつ児童生徒の減少	小学生	6.0% (令和元年度)	3.0%	富士見市学校保 健状況調査
	中学生	22.5% (令和元年度)	13.0%	

4. 成人

指標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	出典
40歳代における進行した歯周炎(4mm以上の深い歯周ポケット)を有する人の減少	40歳代	33.3% (令和元年度)	20.0%	富士見市成人歯科 健診受診者調べ
成人歯科健診受診者数	成人	301人 (令和元年度)	530人	
8020運動を知っている人の増加	成人	49.9%	70.0%	健康に関する アンケート調査 (令和2年度)
◎かかりつけ歯科医を持つ者の割合	成人	63.2%	72.4%	

第5章 計画の推進

5. 高齢者

指標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	出典
成人歯科健診受診者数〔再掲〕	成人	301人 (令和元年度)	530人	富士見市成人歯科健診受診者調べ
60歳代における進行した歯周炎（4mm以上の深い歯周ポケット）を有する人の減少	60歳代	18.5% (令和元年度)	18.5%	
毎日歯みがきをしていない人の減少	65歳以上	6.0% (令和元年度)	0%	高齢者等実態調査報告書 (令和元年度)
毎日入れ歯の手入れをしていない人の減少 (入れ歯使用者のみ)	65歳以上	5.0% (令和元年度)	0%	
固いものの食べにくさを感じない人の増加	65歳以上	70.0% (令和元年度)	75.5%	
8020運動を知っている人の増加〔再掲〕	成人	49.9%	70.0%	健康に関するアンケート調査 (令和2年度)
◎かかりつけ歯科医を持つ者の割合〔再掲〕	成人	63.2%	72.4%	

6. 障がい者・要介護者

指標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	出典
在宅歯科医療を利用する在宅療養者の増加	障がい者・要介護者	34人 (令和元年度)	65人	在宅歯科医療調査 (令和2年)